

SDGs 未来都市及び自治体 SDGs モデル事業について

1. SDGs 未来都市及び自治体 SDGs モデル事業について

○SDGs について

持続可能な開発目標（SDGs）は、2015年9月の国連サミットにて全会一致で採択された、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標のこと。

○SDGs 未来都市及び自治体 SDGs モデル事業について

2018年からSDGsを日本の未来を創る国家戦略の軸に据え、自治体によるSDGsの達成に向けた取組の提案を公募し、優れた取組を提案する都市を「SDGs 未来都市」に選定している。さらに、その中で先導的取組を行う都市を「自治体 SDGs モデル事業」に選定し、資金的に支援している。これまで60都市がSDGs 未来都市に、20事業が自治体SDGs モデル事業に選定されている。

2. 本区の応募内容について

(1) 提案全体（「SDGs 未来都市」選定）について

○全体タイトル

消滅可能性都市からの脱却

～持続して発展できる「国際アート・カルチャー都市」への挑戦～

○内容

① 2030年のあるべき姿

「国際アート・カルチャー都市」の実現

- 世界とつながり、人々が集まるまち
- 多様な文化と出会いが生まれる劇場都市
- 区民一丸となった、安全・安心で人間優先のまち
- みんなが主役の、文化とともに発展する環境都市

② 普及展開性

- 公が先導し、民がこれに連鎖して続く都市再生モデル

区庁舎の移転と跡地の民間再開発、4つの公園を核にしたまちづくり等

- ソフト施策とハード施策の融合による相互連携効果

文化施策と都市再生との融合、IKEBUS サポーターとの連携等による効果の波及

- 都市経営のモデル

多様性の尊重、知恵と工夫による「稼げる自治体」等

③ ステークホルダーとの連携

- エリアマネジメント協議会との連携
- 「オールとしま」での連携
- 自治体間の連携
- 国際的な連携

(2) モデル事業（「自治体 SDGs モデル事業」選定）について

○事業名

国際アート・カルチャー都市 実現戦略推進事業



○内容

経済・社会・環境の三側面での事業展開と、それらをつなぐ統合的な取組により、持続可能なまちづくりを目指す。

	目標	具体的な取組
経済面	<ul style="list-style-type: none"> 多様な文化による地域活性化 歩行者中心のにぎわい 	<ul style="list-style-type: none"> フェスティバル・トーキョー 西口公園における文化イベント 東アジア文化都市との文化交流事業
社会面	<ul style="list-style-type: none"> 高密社会における誰もが安心できる居場所づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 総合高齢社会対策 ・多文化共生関連事業 区内保育施設 IKEBUS 活用事業 池袋駅周辺 4 公園による安心創出 人が主役になる交通環境の実現（歩行者専用化等） インクルーシブ公園の整備と園外保育の充実
環境面	<ul style="list-style-type: none"> 大都市における魅力ある公園整備 協働による環境都市づくり 	<ul style="list-style-type: none"> グリーンインフラの拡充（グリーン大通り、立教通り） 低炭素地域社会づくり 協働による環境都市づくり（カーボン・オフセット等）
統合的取組	<ul style="list-style-type: none"> 3 側面をつなぎ、相乗効果を創出 	<p>【公民連携による都市空間活用プロジェクト】</p> <ul style="list-style-type: none"> 池袋駅周辺 4 公園を中心とするエリアマネジメント組織間の連携 IKEBUS による 4 公園を中心とした連携強化 身近な中小規模公園を住民とともに活用

3. 今後のスケジュール

- 3月上旬～下旬：書面評価及びヒアリング対象団体（30 程度）の決定
※ヒアリング対象に選定された団体は、「SDGs 未来都市」の選定推薦の候補となる。
- 4月中旬：ヒアリングの実施
- 4月下旬：「SDGs 未来都市及び自治体 SDGs モデル事業」の選定
- 5月中旬以降：「SDGs 未来都市及び自治体 SDGs モデル事業」の決定

2020 年度自治体SDGsモデル事業提案概要(提案様式3)

自治体SDGsモデル事業名:国際アート・カルチャー都市実現戦略実施事業

提案者名:豊島区

取組内容の概要: 東アジア文化都市や東京 2020 大会を通じて強化されたレガシーを最大限に活用しながら、大都市の高密度都市における課題を乗り越え本区の強みを活かした文化を基軸とした施策を多様な主体との協働により総合的に展開することで、持続発展可能な都市を目指していく。

消滅可能性都市から持続発展都市「国際アート・カルチャー都市」へ 豊島区モデルを構築、全国に発信

経済



【目標】 ◎ 多様な文化による地域活性

◎ 歩行者中心の賑わい

〔課題〕

- 賑わい、回遊性の拡大
- 歩きたくなるまちづくり

<方向性> 公民連携した魅力ある都市空間



まちの賑わいによる収益が公園等みどりの環境整備へ還元

文化交流活動を幅広く展開することで誰もが主役のまちに

三側面をつなぐ統合的取組み

事業名: 公民連携による都市空間活用プロジェクト

公民連携による公共空間の多機能化・高質化により、高密度都市としての社会課題を解決し、誰もが主役となる都市空間を形成する。

○ 主な内容

- ・ 4つの公園を中心とするエリアマネジメント組織間の連携
- ・ ゆっくり走る電気バス IKEBUS による4公園を中心とした連携強化
- ・ 暮らしの中にある身近な中小規模公園を住民とともに活用

環境



【目標】 ◎ 大都市における魅力ある公園整備

◎ 協働による環境都市づくり

〔課題〕

- 公園の拡大が困難
- 自然が少ない

<方向性> 既存公園の有効活用、新技術の活用、協働による工夫

公園のリニューアル等の整備、IKEBUS 運行による来街者の増大

誰もが活躍できる社会が新たな経済活動を促進

社会



【目標】

◎ 高密度社会における誰もが活躍・安心できる場づくり

〔課題〕

- 高齢者の外出促進
- 子どもの遊び場創出
- 誰をも受け入れる社会

<方向性> 誰もが安全に楽しめる身近な居場所づくり

人間優先の社会づくりは、誰もがゆっくり楽しめる交通の利用増進へ



身近に楽しめる公園等が整備されることで居心地のよいまちに

持続可能な開発目標 (SDGs)

- 2015年9月の国連サミットで全会一致で採択。**「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会**の実現のため、2030年を年限とする**17の国際目標**。(その下に、169のターゲット、232の指標が決められている。)



- 普遍性** 先進国を含め、**全ての国が行動**
- 包摂性** 人間の安全保障の理念を反映し「**誰一人取り残さない**」
- 参画型** **全てのステークホルダーが役割を**
- 統合性** 社会・経済・環境に**統合的に取り組む**
- 透明性** **定期的にフォローアップ**

前身：ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs)

- ▶ 2001年に国連で専門家間の議論を経て策定。2000年に採択された「国連ミレニアム宣言」と、1990年代の主要な国際会議で採択された国際開発目標を統合したもの。
- ▶ 発展途上国向けの開発目標として、2015年を期限とする8つの目標を設定。
(①貧困・飢餓、②初等教育、③女性、④乳幼児、⑤妊産婦、⑥疾病、⑦環境、⑧連帯)
 - ✓ MDGsは一定の成果を達成。一方で、未達成の課題も残された。
 - 極度の貧困半減 (目標①) やHIV・マラリア対策 (同⑥) 等を達成。
 - × 乳幼児や妊産婦の死亡率削減 (同④、⑤) は未達成。サブサハラアフリカ等で達成に遅れ。



SDGs未来都市

- ▶ 自治体によるSDGsの達成に向けた取組を公募し、優れた取組を提案する都市を「**SDGs未来都市**」として選定、自治体SDGs推進関係省庁タスクフォースにより強力に支援。
- ▶ その中で先導的取組を行う都市を「**自治体SDGsモデル事業**」に選定し、資金的に支援。
- ▶ 成功事例の普及展開等を通じ、自治体におけるSDGsの達成に向けた取組の拡大を目指す。
(都道府県及び市区町村におけるSDGsの達成に向けた取組割合：2020年度目標30%)

SDGs未来都市（2018年）



SDGs未来都市（2019年）

